

中小機構四国は、「四国サイコーダイガク祭」を、3月21日(金)13時から、高松シンボルタワーホール棟1階「展示室」にて開催する。プログラムは、「地域資源×女子力創発プロジェクト」に基づき、女子力と地域資源を掛け合わせ生まれた新商品等を発表する。締切3月17日、☎〇八七〇八二一三三三〇

フードアナリスト達が 食文化大使として さぬきうどん文化 の普及に尽力



もり家も協力、東京でセミナーを開催

(社)日本フードアナリスト協会は、2月21日、東京においてシリーズ6回目となる「さぬきうどん食文化大使任命セミナー」を開催した。

本橋手打ちさぬきうどん店の(有)もり家(高松市香川町 森田真司社長)が協賛。香川県出身の一級フードアナリストである山本三紀氏がコーディネーター。「日本の伝統食文化を守りながら世界に普及させていく」という食文化大使の役割を体現すべく、今回、初めて地方でがんばる企業にスポットを当てた。

まずは座学で講師によるさぬきうどんの歴史や文化、材料や定義などの講義。その後はもり家の森田社長

自らうどんを打ちながらの実演、解説、質疑応答を行った。試食はまず素うどんから始まり、生しようゆうどん、いりこだしを賞味。全員にお土産付き。

講師やテキスト作成のメンバーは事前に香川を訪れ、もり家や綾歌製麺でみっちり研修を受けた。



森田氏

受講生は過去2番目に多い約二百名。コシともちもち感が違う。本場

に行つて食べたくなった。などこれまでのセミナーの中で一番反応が良かったという。「さぬきうどん食文化大使」として、今後一年間さぬきうどんの啓蒙活動を行つて行く。7月2日には大使を代表して農水省の林農水大臣に表敬訪問する予定。

日本フードアナリスト協会は20

05年に設立され、食の情報の専門家としての「フードアナリスト」資格者の登録・更新業務を主とし、食育や食文化の伝承などを通じて社会貢献。食品・食材評価制度業務などを行っている。会員数は昨年7月現在約一万二千名。

山本三紀氏は平成16年には第五代高松ゆめ大使のほか、(社)香川県物産協会よりうどん伝道師に認定された。現在は横浜市在住で香川県を食の分野で情報発信する。

もり家は百貨店催事に積極的に出店。社長の森田氏は本場さぬきうどん協同組合理事、泉UDON友の会副会長を務める。

☎〇三一二六五〇五一八
(日本フードアナリスト協会)

さぬき映画祭 2014は大盛況

2月14日から23日までの10日間にわたって開催された「さぬき映画祭2014」。丸亀市出身の本広克行監督を映画祭ディレクターに迎えた2年目として、パワーアップ。

メイン会場もイオンシネマ高松東に加え、イオンシネマ綾川と3月16日閉館を迎えるイオンシネマ宇多津に拡大。期間は10日間に延長。

有料入場者は六千十五人で前年比で189%。総入場者は八千二百六十二



映画祭サポーターは2月23日まで478件(同244件)の申込があり口数で二二二七口(同四七四口*一口五千円)、集まった金額は一千六百三十三万五千円(同三三七万五千円)となり、これまでにない多くの成果を挙げた、映画関係者と地元関係者が新たな関係を結ぶことの出来た、ユニークな地方映画祭となった。

新「ケーズデンキ白鳥店」 移転オープン

(株)ビッグ・エス(高松市多肥上町一〇二〇 大坂尚登社長)は、旧ケーズデンキ白鳥店を閉店し、新しく「ケーズデンキ白鳥店」を、3月6日に移転オープンした。

新店舗の所在地は、東かがわ市白鳥一〇〇一。旧店舗から東へ約一・二km行ったところで、国道11号線から徳島に抜ける国道318線に入ったすぐのところ。

売場面積は二一〇㎡(約六三八坪)と、旧店舗より約1・5倍と格段の広さに生まれ変わった。

店内は、最新のスマートフォン・タブレットPCを始め、TV・冷蔵庫・洗濯機等の家電製品、話題の省エネエアコンやロボットクリーナーに至るまで総数約九千アイテムを超える豊富な品揃えで対応する。スタッフは、奥原章祥店長以下15名(パート含む)体制、家電製品アドバイザーは10名。駐車スペースは約87台。

奥原店長は、「売場も広く品揃えも多くなった。東かがわ市の皆様に、親しまれ喜んでいただける店にしていきたい」と抱負を語っていた。

同社が展開する店舗数は、中四国を中心に25店舗、香川県内は8店舗。☎〇八七九一二四〇一三三四